

去年の暮れ、私は、はじめて出産という経験をしました。真夜中に少しずつ陣痛が始まり、その後、分娩室で息子が生まれたその瞬間、本当に「おぎゃあ、おぎゃあ」という声が聞こえてきました。助産師さんが胸に息子を抱かせてくれ、約10ヶ月の間お腹にいたわが子と対面し、小さい手を触りながら「よく生まれてきたね」と思わず言葉が出ました。その日は出産の興奮と歓喜の中でなかなか眠れずにいました。

そのときふと祖父が生前、私が生まれたときに詠んでくれたという歌がなぜか思い起こされてきました。「本源の いのち名告りて しょうこ佛」という歌です。私が小学校低学年のところに祖父は亡くなったため、会話をした細かな記憶はあまりありません。どちらかという祖父は少し怖い人なのかなあと思っていました。当時まだ小さかった私はこの歌が書かれた色紙をみせてもらっても、亡くなった方を仏様と言うのは分かるが、なぜ祖父は歌の中で生まれたての赤ん坊の私を佛と詠まれたのだろう、とただ不思議に思っていました。

しかし母親になつて「よく生まれてきてくれたね」とはじめて息子に声をかけることができた出産の日、祖父は生まれてきた赤ん坊の私のことを「仏様の限りない命の世界」の中に生まれた大切ないのちと詠んでくれたのではという

う思いが湧いてきました。

12月で息子は一歳になります。ともすれば、育児の不安や「将来はこうなつてほしい」など、大人の願いを子にかけ過ぎ、独善的になつてしまいがちですが、そんな時にこそ母親にならせてもらったことを喜び、それぞれにかがやいていくのち自体が尊いことなのだと思ひ出したいと思います。祖父のすがたかたちはないけれども、息子の誕生を機にまた祖父に出逢い、大切なことを教えていただいた気がします。

